令和8年度 コミュニティ・スクール推進校事業 会議録

会議の名称	氷室小学校学校運営協議会			
開催日時・公開等	令和8年	4月24日	(金)	
会議の公開等	公開		（非公開理由）	
開催事前告知	令和8年	3月24日	(火)	ブログや校長室だより等で広く地域に周知を行った
開催後議事録等の周知	令和8年	4月28日	(火)	ブログ等で広く地域に周知を行った
出席者	学校運営委員協議会会長 稲岡 真弓□副会長 鈴木 みどり、岩渕 佳宏、市口 雅史 事務局：校長、教頭、首席			
欠席者	梅村 尚弘			
案件名	1.コミュニティ・スクール及び本協議会について 2.互選により会長・副会長を選出 3.今年度の学校運営について（令和8年度学校運営の基本方針・学校の手引き） 4.めざす子ども像について（熟議） 5.今後の予定について			
提出された 資料等の名称	資料① …第1回学校運営協議会 レジュメ 資料② …令和8年度学校運営の基本方針 資料③ …令和7年度 学校教育自己診断結果について 資料④ …教職員紹介（学校だより4月号）			

会議内容

1.挨拶
2.協議
①令和7年度 学校教育自己診断結果について
②学校経営方針について

3.協議（意見交流を含む）

1.報告事項：さだ小のスクールビジョンと国の方針との親和性について（岩渕委員より）
岩渕委員より、AIを活用して分析した「さだ小スクールビジョン」と国の教育方針（中教審答申）との親和性について報告がありました。
•国の最先端を行くビジョン: さだ小のビジョン「I make SADA!」は、国の「マクロで抽象的な方針」を、誰もが当事者になれる「ミクロで具体的な言葉」に翻訳した、非常に価値の高いものであると評価されました。
• 完全なシンクロ: 国の求める「生きる力の育成」は、さだ小のめざす子ども像「むきあうん・つながるん・たかめるん」という3つのステップと完全に合致しています。
•心理的安全性の重視:
「自分の弱みや不得手を言えること（むきあうん）」をスタートに置く教育的価値は非常に高く、これが確保されて初めて真の主体性が生まれるとされています。
•環境のデザイン:
国が求める教職員の資質向上を、個人の根性論ではなく「職員室と学級は相似形」という環境（システム）のデザインからアプローチしている点が秀逸であると報告されました。
• さだ小エコシステム:
地域の土壌を豊かにすることで、教職員（幹）が元気になり、子ども（果実）が育つという「さだ小エコシステム」の好循環が形成されています。
2.他市の好事例報告 地域と学校が一体となった教育実践の参考として、以下の事例が紹介されました。
• 茨城県の拡大協議会:
「拡大学校運営協議会」として大人数で熱心に協議を行い、地域が学校目標の達成に向けて主体的に関わっている事例が紹介されました。
•子どもの参画（大阪市立長原小学校等）:
コミスク（コミュニティ・スクール）に子どもを入れ、大人が難航している案件を子どもの「とりあえずやってみたら」という一言が動かした事例がありました。さだ小でも、子どもに「どんな学校だったら好きになれるか」を一緒に考えてもらう場を作る提案がなされました。
• 8年越しの信頼構築:
当初は地域との連携に否定的だった学校が、地域住民の粘り強い協力（毎週の草刈り等）を経て、現在では子どもも交えて学校の課題（学習習慣の定着等）を共に考える場にまで発展した事例が共有されました。
3. 主な協議内容：今後の教育実践と地域連携 • キャリア教育の推進:
子どもたちが知っている職業の幅が狭いという課題に対し、地域の多種多様な職業を持つ大人が登壇し、自分の仕事を語る「100人プロジェクト」のような取り組みが提案されました。
• PTA改革と利点の発信:
PTAに入ることのメリット（さだ中学校では、制服リサイクルへの参加等実践 稲岡委員）を明確に周知し、時代に合わせた形での継続を模索していくことが話し合われました。
•デジタル活用による情報共有:
地域の活動や協議会の様子を、紙の通信だけでなくインスタグラムやホームページ、オープンチャットなどのデジタルツールを活用して、顔が見える形で発信していく方向性が示されました。
• 運営方法の見直し:
年数回の「やらされ感」のある会議ではなく、平日の日中など集まりやすい時間を設定し、具体的な課題解決に向けた「作戦会議」のような場にアップデートしていくことが合意されました。

4. 次回日程 次回の協議会は、6月2日（火）13時15分より開催し、今回出された方向性をより具体化していく予定。